

# 自己評価結果公開

小百合保育園

## 1. 本園の保育目標

乳幼児の発達を正しくとらえ、個人差や環境に十分気を配り、集団生活を通じてすべての面の発達を促進させるような生活・活動を豊かに展開し、子どもたちが自分を大切に、他人を大切に、互いに協力し合って、よりよい生き方が出来るよう、その基礎を培う。

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己点検・自己評価することにより、職員の共通理解をはかり、職員自身の振り返りと自園を客観的に見直す目を養い、職員の資質の向上、保育の向上を目標に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

### ①保育の計画性 B

園の保育理念・保育方針と保育所保育指針の理解のB評価が多く、よく理解できていないのが目立つ。指導計画の作成については、全体的な計画や、保育指針、幼児の実態を基に考え作成できている。そのクラスや園児に合わせた踏み込んだ計画は、前回よりできている。

### ②保育の在り方・幼児への対応 A

各クラスともその年齢の発達や育ちを理解しながら、保育者との信頼関係を保ち保育することを心がけてきた。保育士と調理師との連携については、ミーティングによって深めることができた。今後も各部門のミーティングの開催を活発にして、連携を深めていきたい。

### ③専門家としての資質 A

キャリアアップの研修にはできるだけ多くの職員が参加できるように配慮した。研修内容を報告することで、内容の理解を深めることができたようだ。今後は、次のステップとして、課題を持って参加できるようになることや、障がいのある幼児や障がい疑いの幼児に対する保育の在り方を学んでいきたい。県や市で行う研修には引き続き、できるだけ多くの保育士を派遣し、専門家としての資質の向上に努めていきたい。

### ④保護者への対応 A

コロナウイルス対応で保護者が園内に入れなくなることから、担任とのコミュニケーションが取りにくいという意見があるので、クラス懇談会を取り入れた。保護者の本音を聞くことができ、有意義な時間になった。

### ⑤地域との関わり B

地区内によく散歩に行ったり小学校に遊びに行ったり、地域住民との交流を深めてきた。コロナ禍で地域の行事への参加要請はなかったものの、公民館に向いて地区文化祭のコーナーで遊んだり、解体時の落書きをさせてもらったりした。

## 4. 今後取り組むべき課題

### \*特別支援教育

今年度も「診断されている子ども」「クラスの中で支援を必要とする子ども」などの特性を園全体で話し合い共通理解を図ってきた。担当職員や主任は医療・福祉の関係機関との連携を持ち、指導を仰いだり、情報交換を行っている。特別支援のみならず、各部門について広い範囲で共通理解できるように研修を充実させたい。

### \*保護者との連携

今年度も引き続きコロナ禍で親子行事が取りやめになったり縮小された。園で初めてのクラス懇談会では、保護者の子どもに対する思いや本音を聞くことができたり、担任の保育に対する思いなどを話すことができたり、有意義なものとなった。また保護者同士の交流の場にもなった。

### \*地域との関わり

公民館行事などへの参加要請はなかったが、に消極的だった。地域との関わりを持つ必要があるため、コロナ規制緩和後は参加要請があれば、積極的に参加していきたい。また、今後とも小学校との連絡会等で話題になったことは、全職員へ報告する機会を設ける。